

洛西NTアクションプログラム推進会議の開催について

洛西ニュータウンは昭和51（1976）年9月に入居が開始され、本年度で41年が経過し、全国の同時期に建設されたニュータウンと同様、人口減少、少子高齢化が急激に進行しており、また、市営住宅を始めとした各施設では老朽化が進み、設備や仕様が時代に合わなくなっているところや有効活用が図れていないところなどが見受けられます。

※ 平成7年と平成27年の国勢調査比較

人口：京都市 1,463,822 人→1,475,183 人（+0.7%）＝微増
 洛西NT 34,225 人→ 22,899 人（▲33.1%）＝3分の1減

高齢人口：京都市 213,408 人→381,132 人（+78.6%）＝1.8倍
【構成割合 14.6% → 25.8%】
 洛西NT 2,136 人→ 8,532 人（+299.4%）＝4.0倍
【構成割合 6.2% → 37.3%】

年少人口：京都市 200,258 人→162,141 人（▲19.0%）＝2割減
【構成割合 13.7% → 11.0%】
 洛西NT 7,250 人→ 2,035 人（▲71.9%）＝7割減
【構成割合 21.2% → 8.9%】

洛西ニュータウンでは、今から約10年前の平成18（2006）年11月に、「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」が策定され、いち早く、地域住民の方々が主体となって、まちづくり活動が取り組まれてきており、学区・地域を越えた連携や協力体制が構築されるに至りました。

しかしながら、前掲のとおり、人口減少・少子高齢化の進行に歯止めはかかっておらず、このままでは、「人口減少・少子高齢化や老朽化→地域の活力の低下→地域の不便さの増大→地域全体の魅力の低下とイメージダウン→人口流入も見込めず、活力低下に拍車・・・」といった悪循環になりかねず、分譲住宅、公営住宅、公共施設や商業施設等が折角整備されたニュータウンが、これからも「まち」として持続していくためにも早急に再生の取組を進めることが望まれます。

そこで、洛西ニュータウンを、次世代にしっかりと引き継いでいくことを目指し、「住む方が安心して住み続けるための取組～子ども安心・健康長寿のまち～」とともに、「洛西ニュータウンに訪れたいくなる・住みたいくなるための取組」を進め、隣接地域とも連携しながら、洛西ニュータウンの活性化を図るための方針を、地域の住民・事業者と行政が協働して、前掲のまちづくりビジョンの考え方を活かしながら、平成28年度末に「洛西ニュータウンアクションプログラム」として取りまとめました。

計画期間の4年間で、このビジョンに位置づけた各取組を着実に進めていくために、取組の進行管理や取組主体同士の連携促進などを行うことが必要であることから、この度、地域が主体となって、「推進会議の設立」を始めとした推進体制を整備するものであり、本日の「洛西NTアクションプログラム推進会議」において、御確認いただきたいと考えています。

地域住民の方々や関連する団体・事業者・行政関係者、皆様の御協力をよろしくお願いいたします。